

# 掲示板のことば

えらび きらい  
見捨てる  
我々の心

えらばず きらわす  
見捨てる  
如来の心

この言葉は、26年前、私が京都の大谷専修学院という、真宗大谷派の教師養成のための全寮制の学校に通っていた時、当時の学院長であった、竹中智秀先生がよくおっしゃっていた言葉です。

阿弥陀如来という仏さまはどんなお方か、それは、私たちを決して選ばず、嫌わず、見捨てることのない仏さまなのだとされていました。その仏さまは、どのようなのちも、漏れることなく平等に、必ず摂（おさ）め取って捨てないのだと。そして、いつでも、どこでも、誰にでも、常に呼びかけ続けているのだと、このようにおっしゃっておられました。

しかし、その呼び声は、なかなか私には聞こえてこないのですが、ふとした時に、その呼び声を感じる時があります。

それは、この私が、目の前の人を選び、嫌い、見捨てているということに気付くというかたちで、聞こえてくるのですね。仏の教えが私のことを言い当てているように聞こえてくるのは、この私が、仏の教えに背く生き方をしていることを知らされることなのでしょう。

私の心を教えてくださる「はたらき」を、如来（仏さま）の心というのでしょうか。